

第6小主題（生徒指導）

自他を敬愛し他者と協議しながら自己実現を図るための
自己指導力を育成する生徒指導の充実

【郡山支会テーマ】

一人一人の多様なウェルビーイングの向上を目指す
校長のマネジメント

郡山支会 発表者 郡山市立西田学園義務教育学校 星野亞希

郡山支会

1 研究の趣旨

自他を敬愛し他者と協働しながら
自己実現を図るための自己指導力の育成



- ・人格のよりよい形成と学校生活の充実の基盤
- ・組織的、継続的な支援・取組の充実
- ・家庭や地域及び関係機関、SCやSSWなどの専門スタッフ等との連携のより一層の充実

郡山支会

1 研究の趣旨

〈目指す郡山の子ども像〉

高い志を持って自立し、他と協働して未来を拓く子ども

〈基本方針〉

SDGs を郡山の子どもたちから

「誰一人取り残されない」教育の推進

～一人一人の多様なウェルビーイングの向上のために～

【令和7年度郡山市の学校教育推進構想より抜粋】

郡山支会

1 研究の趣旨

〈郡山市の教育課題〉

- ・学び方の変革・教え方の変革、教育DXの推進
- ・**自他の生命（いのち）を大切にする指導の徹底**
- ・いじめ、不登校、特別な支援を要する児童生徒への対応
- ・学齢児童生徒数の減少、学校規模の偏在化
- ・教職員の働き方改革の推進
- ・体力向上・肥満防止対策

郡山支会

2 研究の進め方 (1) 研究の方向

自己指導力を育成するために・・・

→ その時、その場でどのような行動が適切であるか
自分で考えて、自分で決めて、実行する能力

- ・自己存在感の感受
- ・共感的な人間関係の育成
- ・自己決定の場の提供
- ・安全・安心な風土の醸成

郡山支会

2 研究の進め方 (2) 研究の視点

【視点1】自己指導能力を育成する学校教育の在り方

【視点2】いじめ防止への対応や自殺防止
及び不登校生徒への支援の在り方

【視点3】関係機関との連携・協力を密にした
生徒指導の推進

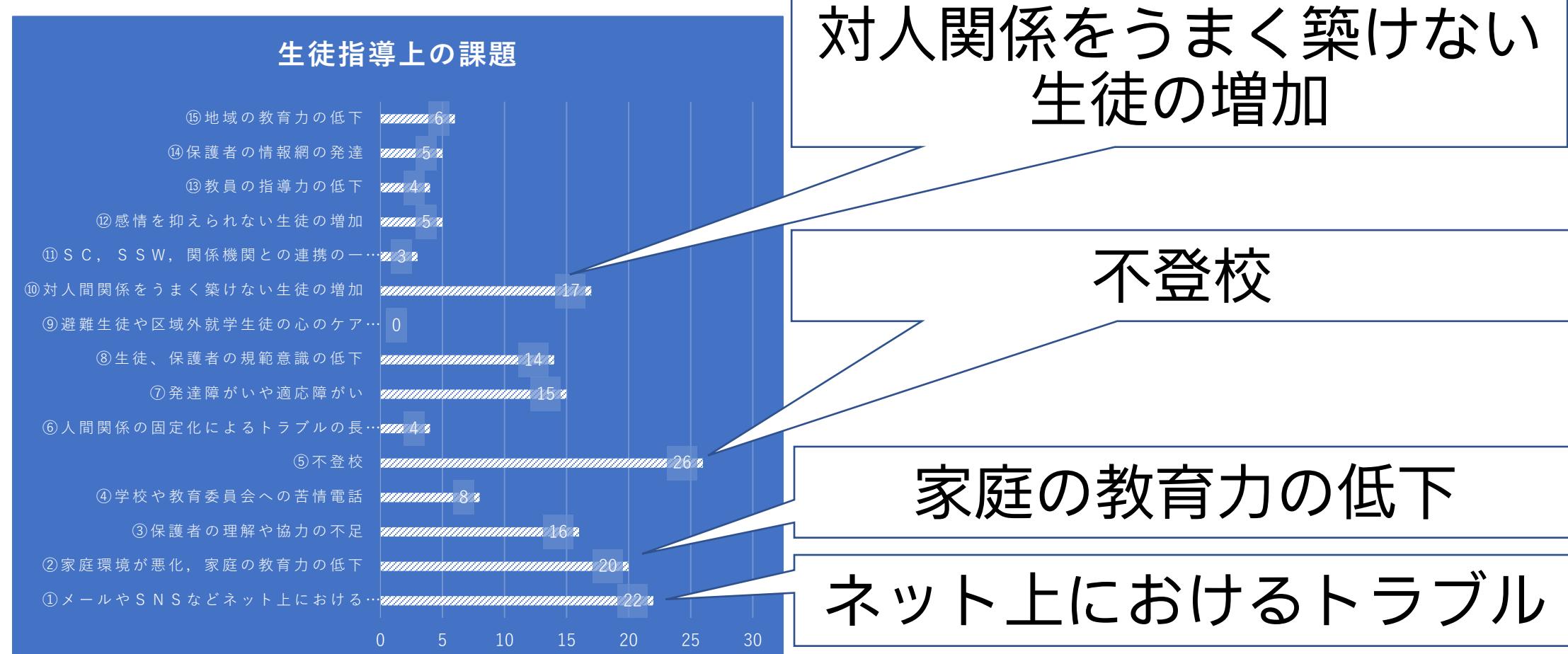
郡山支会

3 研究の方法と計画

- I R7 自校の生徒指導上の重要課題を明確にし、解決に向けた校長としての方針を明示する。
- II R8 実効ある指導となるよう家庭や地域社会、関係機関、専門家等との一層の連携強化を図る。
- III R9 課題の解決に向けて指導・助言を加えながら実践を深める。
- IV R10 実践事例を集約し、成果と課題を明確にして研究の共有化に役立てる。

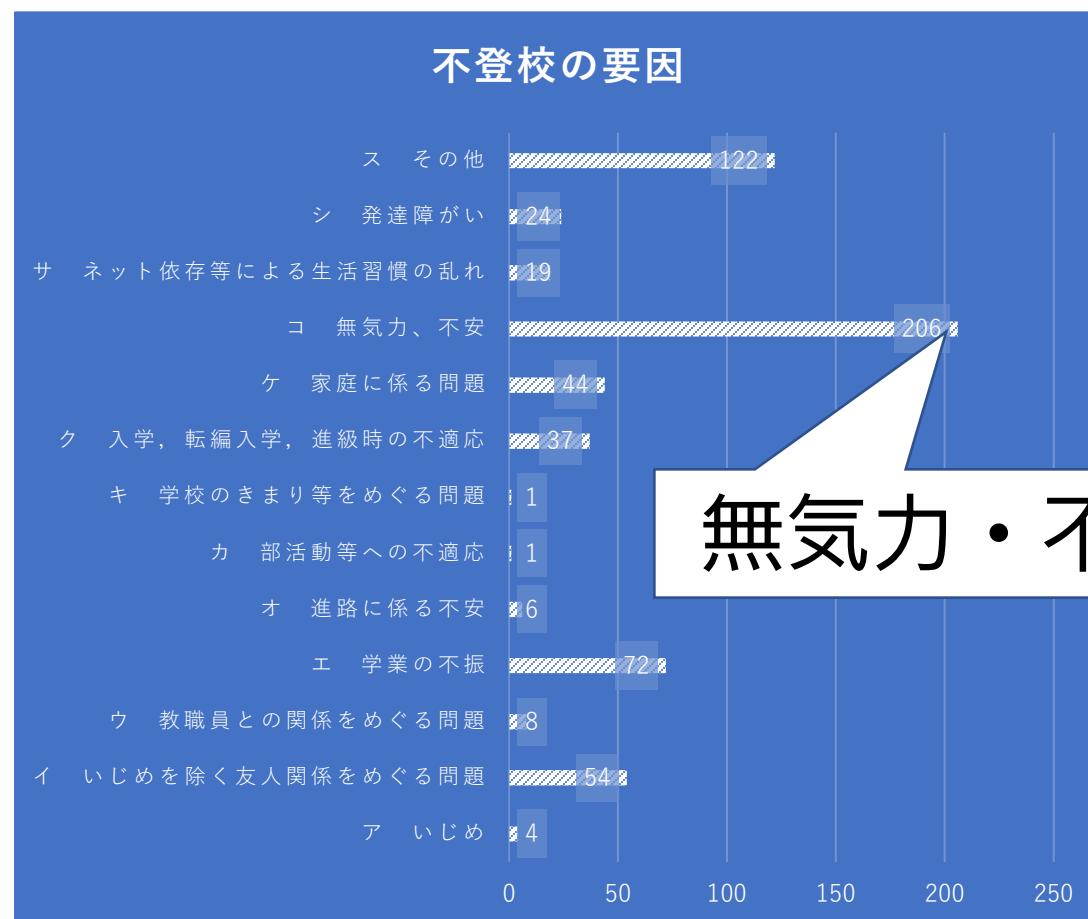
郡山支会

4 研究の概要と考察 (1) 実態調査①



郡山支会

4 研究の概要と考察 (1) 実態調査②

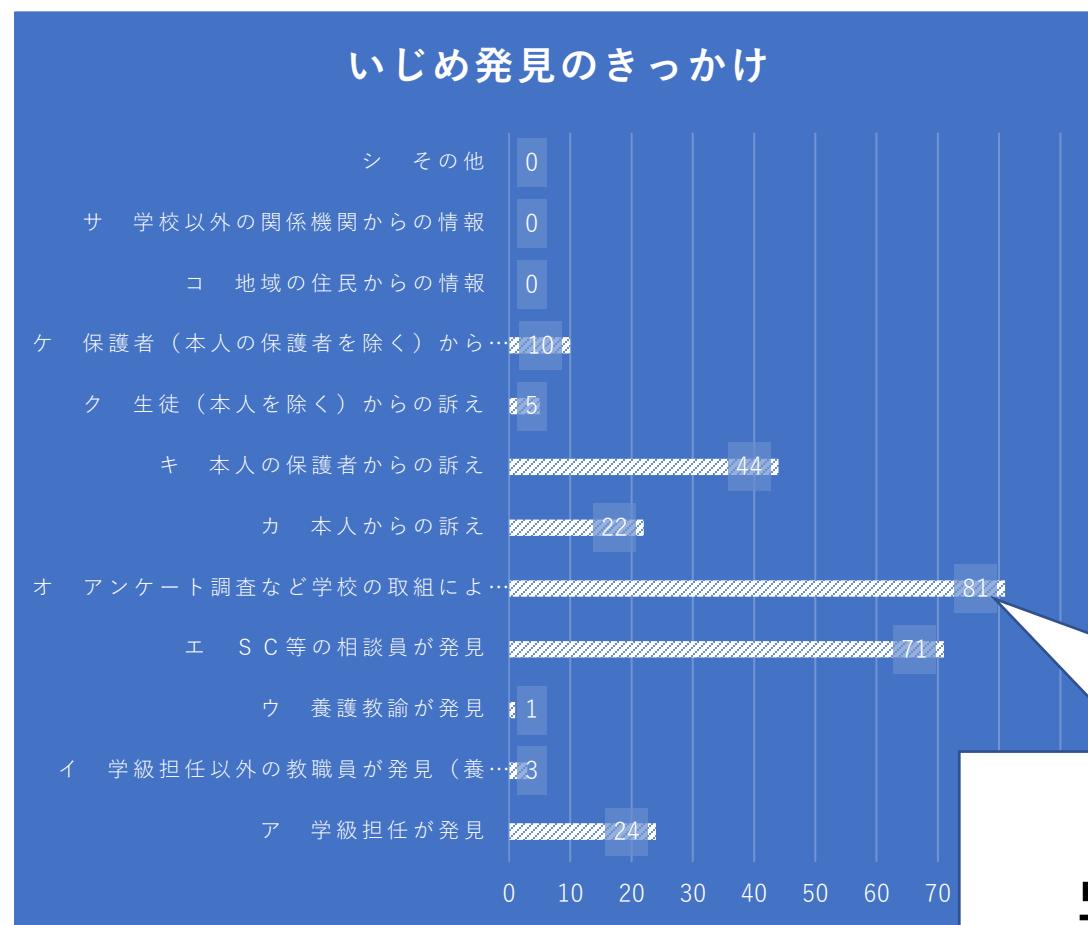


〈相談・指導を受けた機関〉

- ・病院、診療所 22件
- ・教育支援センター 20件
(適応指導教室)
- ・児童相談所、福祉事務所 11件
- ・民間団体、民間施設 8件

郡山支会

4 研究の概要と考察 (1) 実態調査③



〈学校の取組〉

- ・定期的なアンケート調査
→管理職による確認
- ・アンケート後の面談実施
- ・SCによる全校生面談
- ・SCとのコンサルテーション

アンケート調査など
学校の取組によるもの

郡山支会

4 研究の概要と考察 (1) 実態調査④



〈学校の取組〉

- ・学校警察連絡協議会の実施
- ・地区交番連絡協議会の実施
- ・地区PTA小中校サポートチーム
- ・学校運営協議会との連携
- ・PTAとの連携

郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 1

実践例 1

SWOT分析による自校課題の共通理解と共通実践

【視点 1】

- ① 自校の実態を把握するためのSOWT分析の実施
- ② 課題解決に向けた戦略図の作成と全職員での共通実践
- ③ 公民館、自治会、小学校との連携

郡山支会

4 研究の概要と考察（2）研究実践 1

① 自校の実態を把握するためのSWOT分析の実施

プラス要因(伸ばしたい良さ、 メリット)		マイナス要因(改善を要する課題、 デメリット)
<p>S t r e n g t h</p> <p>生徒 ・素直でまじめ ・礼儀正しく一生懸命 ・協力的 ・堅実さ ・一人一人に活躍の場 ・男女学年問わず仲が良い ・部活に積極的に参加 ・縦割り活動が良く機能 ・明るい ・あいさつが丁寧 ・物を大事に使う ・自ら考えて行動する姿がある ・積極的な発言 ・奉仕的精神がある ・伝統を受け継ごうとする意識 ・規律、秩序を守ろうとする意識</p> <p>保護者 ・学校に協力的な保護者が多い ・学校を信頼している</p> <p>教職員 ・経験豊かな教職員</p> <p>施設 ・人数に対し十分なスペースや数 ・コロナ禍でも密にならず学習できる ・自然豊か、緑が多い</p>	<p>W e a k n e s s</p> <p>生徒 ・視野や体験が狭くなりがち ・貪欲さ ・競争心が弱い ・困難なことへの挑戦心 ・創意工夫が苦手 ・投稿渋り、不登校 ・人数が少なく団体戦への出場が困難 ・外部交流の少なさ、大舞台で緊張 ・自分たちの考えに固執し新たな考えに触れる機会が少ない ・宿題やノート等の忘れが見られる ・指示待ちの面も</p> <p>保護者 ・複雑な家庭環境の家がある(連携困難な面も) ・教育に关心が薄い保護者も</p> <p>教職員 ・年齢構成のアンバランス</p> <p>施設 ・練習試合等になると不足する設備(卓球台) ・空き教室の有効活用 ・予算が少なく買換えができず古い物品が多い</p>	
<p>O p p o r t u n i t y</p> <p>地域 ・地域交流による風通しの良さ ・子どもたちの活躍の場が多い ・学校に理解があり協力的 ・地域の良さや伝統を守っていこうとする風土 ・地域行事と授業の結びつき(秋螢、海老根和紙) ・和菓子作りなどの体験に協力的 ・豊富な地域資料 ・学校への信頼をもっている</p> <p>市 ・美術館、入場料無料、大安場古墳等学習施設が多い ・教職員研修が充実</p>	<p>T h r e a t</p> <p>地域 ・生徒、保護者とも承認図による役割過多 ・生徒数の減少(学校統廃合の流れか) ・道幅が狭く交通事故の心配 ・学区内に大きな道路と河川がある ・野生動物(イノシシ、マジ等)注意 ・急斜面が多く土砂崩れの心配</p> <p>市 ・各種調査の多さ ・出張や悉皆研修の多さ ・大規模校と小規模校、一律の対応</p>	

郡山支会

4 研究の概要と考察（2）研究実践 1

② 令和7年度生徒指導に関する戦略図の作成



郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 1

③ 公民館、自治会、小学校との連携

「家庭の教育力」を補う取り組みとして、小中学校や地区でも、取り組みを提案

「家庭の教育力」を補う取り組みとして、小中学校や地区でも、取り組みを提案

この文書は、小中学校や地区での「家庭の教育力」を補う取り組みについて提案するものです。主な内容は以下の通りです。

- 欠席・遅刻・見学・早退**: 保護者の連絡や送迎が必要です。
- 登下校・帰宅**: 登校時間（7:45～8:10）、下校時間（17:50～18:20）が示されています。
- 週に1日マネジメントデー**: メディアコントロール＆読書推進が行われます。
- 持ち物**: 通学かばん、ハンカチ、ティッシュ、教科書、筆記用具、下敷き、学習用具等が規定されています。
- 服装等**: 部活動への参加は自由ですが、制服を着用する場合は、各部活動の規則に従う必要があります。
- 部活動**: 野球、サッカー、バケットボール、剣道、美術、吹奏楽（男女）、ハンドボール、卓球（男）、ボドミントン、ソフトテニス（女）、特技部（音楽、美術、英語等）等が挙げられています。
- 提出物について**: 自主学習、生活の記録（タイムくん）等が毎日提出されます。
- 学習用具**: シャープペン、鉛筆（HB,Bなど）、15cm位の定規、消しゴム、下敷き等が使用されます。
- 図書館の利用**: 利用時間（8:00～8:15、昼休、放課後）、貸出冊数（月～木 1冊、金 3冊）、木・金は図書館司書が勤務等が記載されています。

郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 1

実践例1の成果及び課題【視点1より】

- SWOT分析を通して、教職員一人一人が自校の課題について主体的に考えることができた。
- ボトムアップとトップダウンのバランスが取れた実践になった。
- 「小さなできた」を積み重ねるマネジメントデーの定着と各種団体との協働に向け、更なる働きかけと提案を継続している。

郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 2

実践例 2

教育目標具現化に向けた 7 つの力の習得

【視点 1】

- ① 7 つの力の決定
- ② 人事評価への設定
- ③ 人権擁護委員による人権教室の実施
- ④ 道徳の授業の充実と学級力アンケート

郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 2

① 7 つの力の決定

- ・ 主体性
- ・ 長所伸展力
- ・ 自己表現力
- ・ 言語能力
- ・ 問題解決力
- ・ 協働力
- ・ レジリエンス

令和 7 年度 中学校 学校教育グランドデザイン

（本校生徒のよき）
○家庭・地域の実態
○学校の教育活動に理解を示し、協力的である。
○地域や文化などの地域文化や気概を大切にしている。
○小中が隣接し、学習や行事等で連携している。
○住民の高齢化、少子化の影響を受けている。

（生徒のよき）
○家庭や地域との連携を重視する。
○自己成長をめざす意欲がある。
○自分の意見を尊重して仲間と一緒に協力して活動に取り組む。
○互いに助言し、協力して問題解決に取り組む。
○部活動に積極的に参加し、技能の向上に取り組む。
（課題）
●基礎的・基本的な力の定着が不十分であること。
●失敗を恐れず何事にも積極的に挑戦し、苦しいことから逃げずに最後までやり遂げようとする気持ちを持つこと。
●コミュニケーション能力や自己表現力を高めること。

（生徒のよき）
○家庭や地域と共に歩む校づくりに参画し、想いを形にする教育を推進します。
○小中連携を強化し、9年間を見通した学びを進めます。
○家庭や地域と共に歩む校づくりを推進します。

（夢を持ち、生徒が積極的に参画する学校）
（御館小・御館中キャリア教育で育みたい力）
○豊かな心身の育成を通して、御館地区の子どもたちに次の4つの力を涵養する。
【人間関係形成・社会貢献能力（つながる力）】
【自己実現・自己實現能力（自律する力）】
【課題対応能力（考える力）】
【キャリアプランニング能力（見通す力）】

（夢が叶う確かな学力の育成）…目的意識を持ち、根気強く学び、確かな学力を身につけることのできる生徒を育成する。

（豊かな心の育成）…互いに「支え合い」、「認め合い」、「励まし合い」そして「共に高め合う」ことのできる生徒を育成する。

（健やかな心身の育成）…心身ともに健康で、粘り強く行動し、自己と集団の向上をめざす生徒を育成する。

具体的な実践事項

1 「教える」から「学ぶ」への変革
・ 教師が「話す」授業から「聞く」「つなぐ」授業へ
・ 教室の効率的な活用と、対話と協働を重視した学び、探究的な学び
・ 共同構想による授業づくり

2 表現力・書く力を土台に「考える力」の向上
・ 毎日の生活場面での適切な言語指導、読み聞かせ（学校司書との連携）
・ 新聞活用（毎週水曜日の新聞学習の時間）
・ 書く活動（レポート・新聞づくり・作文等）の意図的な設定

3 特別支援教育の視点で一人一人の良さの伸長
・ 生徒が、自身の持てる力を最大限発揮できる合理的な配慮の提供
・ 個別の支援計画、個別の指導計画による共通実践
・ 関係機関との連携

4 キャリア教育の視点で夢や希望を育む
・ キャリアパスポートの活用による小中連携
・ 校内ハローワーク、職場体験、高校説明会等によるキャリア教育推進
・ 総合学習における「生き方学習」の充実

5 歌舞伎学習への生徒の積極的な参画
・ 地域の伝統文化を尊重・継承する態度や表現力・コミュニケーション能力の育成
・ 個々をかすこスコース学習の設定と生徒の参画
・ 歌舞伎保存会・地域コアティナーター等との連携

6 安全指導の充実によるよりよい学校づくり
・ より伝統の継承と生徒の力委員会・生徒集会の工夫
・ 実践を通じたリーダーの育成・生徒の意見の反映

7 生徒指導の機能を生かした学級経営
・ いじめのない協働的・対話的風土づくり
・ 自己指導能力を高める積極的な生徒指導の推進（自己決定の場・自己存続感、共感的人間関係）

8 道徳教育の充実
・ 考え、議論する道徳の授業
・ ローテーション道徳の実施
・ 生徒集会等における校長講話、看護職による全校道徳

信頼される学校…生徒の学びを支える

家庭・地域との連携
・ 校園運営協議会（年2回）、PTAとの連携
・ 情報発信（HPの充実、各学年通信等の発行）
・ 地域人材、地域資源の活用
・ 地域行事への積極的な参加

小中連携の強化
・ 9年間を見通した系統的な教育
・ 小中連携キャリア教育推進構築による共通実践
・ 小中連携協議会の開催（年2回）
・ 小中相互研究授業実験、児童生徒の交流

働き方改革
・ 週1回の「生徒一齊下校日（ノーリテイ）」の設定
・ 校務支援ソフトの効果的な活用
・ 会議の精簡化、短縮化、ペーパーレス化
・ 日没時間等に応じた柔軟な時間割

教職員の資質・能力の向上
・ 生徒のために共に支え合い、高め合う組織
・ 校内研修（規範教育）の充実
・ 外部研修への積極的な参加
・ 不祥事対策に向けた取組（不祥事ゼロが郡山の常識）

郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 2

② 人事評価目標への設定

- 教職員人事評価制度を活用し、人事評価シートの自己目標と手だてに「7つの力」のうち、**どの力をどの場面で習得させたいのか**を教職員一人一人が位置付ける



教職員が7つの力の習得に向け同じ方向で取り組む

郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 2

③ 人権教室の実施



④ 道徳の授業の充実と 学級力アンケート



郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 2

実践例 2 の成果及び課題 【視点 1 より】

- 年度当初に、校長が自ら道徳の授業を実践したこと、人事評価の自己目標に 7 つの力を位置付けさせ、取組について対話を重ねたことで、今年度目指す方向性を共有することができた。
- 7 つの力は目に見えにくいものであり、変容について考察するためには工夫が必要である。

郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 3

実践例 3

「組織的アプローチ」による不登校支援体制の構築

～自己決定を重視した不登校支援の実際～ 【視点 2・3】

- ① 全職員を対象とした研修会の企画・実施
- ② 不登校生徒への対応指針の策定と共有
- ③ サポートルーム委員会の体制整備
- ④ 行政機関や外部支援機関との連携体制の強化

郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 3

- ① 全職員を対象とした研修会の企画・実施
- ② 不登校生徒への対応指針の策定と共有
 - ・ 調理実習などの体験的活動から参加を促す
→登校への心理的抵抗感を段階的に緩和
 - ・ ICT環境を整備し、各教科の授業についてもオンライン配信を実施する体制を構築
→自宅にいながらも学習に参加できる機会を提供

郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 3

- ③ スペシャルサポートルームの企画・実施

- ・ 生徒の居場所としての機能重視
- ・ 「自己決定」を促す
- ・ 個人ブースの設置
- ・ 生活支援員 1 名を常駐
- ・ 校長の考えを支援員と共有



郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 3

④ 行政機関や外部支援機関との連携強化

〈SSR運営委員会〉

- ・管理職
- ・生徒指導主事
- ・特別支援コーディネーター
- ・SSW
- ・担任
- ・養護教諭
- ・SC
- ・行政の福祉担当者

郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 3

実践例 3 の成果及び課題 【視点 2, 3 より】

- 多職種によるケース会議の定例化により、教職員間の情報共有が充実するとともに、関係機関との連携も強化。
- 自己決定を経験する中で、自分から教室で過ごすことを望むようになる。
- 教職員の負担軽減と役割分担の最適化、外部資源の効果的活用などの工夫が必要

郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 4

実践例 4

誰一人取り残さないための生徒指導の充実

～校外協力体制の整備と関係機関との連携～【視点 2・3】

- ① 校内支援体制の構築と組織的な支援
- ② 小中連携の推進
- ③ コミュニティースクールとしての地域資源の活用

郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 4

- ① 校内支援体制の構築と組織的な支援

- **校内教職員を繋ぐ**ことに重点を置き、ミドルリーダーを生かす
- **情報の一元化による問題の早期発見と組織的対応**
- 定期的なケース会議の実施と支援計画のデータベース化
- 学年、養護教諭、SCとの連携のもと、きめ細かなチーム支援を行い、自己肯定感、自己有用感を育む教育活動を実践

郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 4

② 小中連携の推進

- ・ 小中連絡協議会での、教育活動の実施状況や児童生徒に係る情報等の共有



郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践 4

③ コミュニティースクールとしての地域資源の活用

- ・ 学校運営協議会の活性化と地域の教育力を生かした学校経営の推進
- ・ 警察や各種連絡協議会等、地域の既存の組織を生かした生徒の安全確保の徹底



郡山支会

4 研究の概要と考察 (2) 研究実践4

実践例4の成果及び課題【視点2, 3より】

- 定期的なケース会議の実施と支援計画のベース化
- 情報の一元化による総合的な判断
- 学校運営協議会において不登校傾向の状況を共有し、地域住民からの助言をもとに学校運営に生かす
- 校長の発言の重さを校長自身が自覚し、トップダウンとならないように意識していく

郡山支会

5 研究・実践のまとめ①

◎ 学校経営ビジョンと学校課題をリンクさせること

→ 管理職の経営理念や思い、考えを教職員に伝えるとともに、実態把握のための方法や日々の実践と課題解決の手立て等具体的な方向性を示したことで、学校全体が同じ方向を向いて学校経営を進めることができた。そして、教職員の参画意識の高まりがみられ、一体感のある学校づくりにつながった。

郡山支会

5 研究・実践のまとめ②

◎ 課題解決に向けて人事評価制度を活用すること

→ 教育目標の具現化に向け、教職員自らが課題解決への自己目標を明確にすることができるとともに自らの強みや弱み等を知る機会となり、自発的な能力開発を促すことにもつながっていくことが確認できた。

郡山支会

5 研究・実践のまとめ③

◎ 具体的な助言や働きかけをすること

→ 傾聴と共感を重視した対話型面談を通して教職員の現状や思いを把握することができた。また、校長が「教職員を繋ぐ」という意識をもつことで、教職員の人材育成と教職員の学校運営に積極的に参加する取組に繋がっていくことが確認できた。

郡山支会

5 研究・実践のまとめ④

◎ 校内外の関係機関との連携を図り、様々な視点から学校経営を振り返ること

→ 地域人材の学校運営参画を促したり、専門職による指導助言を受けたり、多職種連携体制を強化することで、生徒の安全・安心の確保など生徒を多角的に支援していくことができることが確認できた。

郡山支会

5 研究・実践のまとめ⑤

〈課題〉

- 「ゆとり」を生む「働き方改革」の推進
- 学校アンケートの項目等の見直しによる取組の成果や生徒の変容把握
- 人的・物的整備により持続可能性を高めていくこと

郡山支会

おわりに

- 支援型リーダーシップ
- 参画型マネジメント
- 教職員とともに歩む学校経営



ご清聴 ありがとうございました

郡山支会